

浅海地区タウンミーティング

平成24年4月13日（金曜）

【市長】 皆さんこんばんは。平日の夜間、また、雨の中このようにお集まりをいただきましてありがとうございます。日中、結構雨が降りましたので心配しておりましたが、だいぶ止んできたようです。このタウンミーティングの開催に当たりましては、浅海地区区長会の忽那会長はじめ、役員の皆様にご協力いただきました、ありがとうございます。このタウンミーティングですけれど、市役所において皆様が来るのを待ってるほうが楽ですよ。でも、果たしてそれでいいのかというふうに思いました。松山市内は41の地区に分かれます、それぞれに公民館本館が置かれているわけですが、それぞれの地区ごとに歴史もありますし、特徴もあります。ですので、行政が主体になってまちづくりをしていったのでは、金太郎あめのような地区ばかりができてしまうんですね、その41の地区の集まりである松山市はそんなにおもしろいまちだとは思わないです。でも41の地区がそれぞれ輝けばその集合体である松山市はもっと輝くと思います。ですので、できるだけ地区に出向かせていただいて皆さんと意見交換をさせていただこうと、私の代になって始めたのがタウンミーティングでございます。ここに書いてありますように、タウンミーティング3部構成にしております、まず一つ目は魅力について語っていただきます。これはまず、その地区の魅力をしっかりととらえて、その魅力を活かしたまちづくりをしていくことが大事だと思います。その地区の魅力を一番わかっているのはだれか、それは地区に住む皆さん方ですよ、ですのでまず、地区の魅力について再認識していただくのが一つ。そしてテーマ2、テーマ3とありますけど、当然問題点、課題点というものもあると思いますので、それについても教えていただくのがこのタウンミーティングでございます。また、もう一つ、みなさまにお約束できるのが、やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないというのがこの松山版のタウンミーティングでございます。出ていくことも職員にとっては負担を強いることになるんですけど、もう一つ、例えばやりっぱなし、聞きっぱなしにしたほうが楽ですよ、でもそれはいたしません、必ずここでお答えをできることはお答えをいたします。中にはここでお答えできないものもあるかもしれません。例えば国と絡むもの、県と絡むもの、財政的な

問題があるもの、そういうものがあるかと思えます。そういったものは必ず持ち帰らせていただいて、検討させていただいて地元で返答をさせていただきます。そのめどといたしましては、国に問い合わせる、県に問い合わせる、また財政的な問題があるものについては、例えば国に問い合わせ返ってきて、それから松山市としての考え方をまとめるということがありますので、1カ月をめどにという言い方になりますけど、必ず返答をさせていただきます。やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないというのが、このタウンミーティングでございます。

いつもタウンミーティングは、私と市の部長、課長たちが来ておりますので、それぞれに専門分野がございますので、自己紹介をさせます。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します。このタウンミーティングを統括しております。普段の業務といたしましては窓口におけるサービスの提供ということで市民課、22支所7出張所、消費生活センター、パスポートセンター、市民サービスセンター、こういった窓口においてサービスを提供させていただいたり、地域における住民主体のまちづくり、人権啓発とか男女共同参画事業、こういった市民生活に密接な幅広い事業やっております。今晚はよろしく願いいたします。

【農林水産担当部長】 皆さんこんばんは、産業経済部農林水産担当の中西といいます。どうぞよろしく願いいたします。産業経済部では商業の振興、雇用の対策、観光振興、農林水産にかかわる仕事をやっております。どうぞよろしく願いします。

【社会福祉担当部長】 皆さんこんばんは、保健福祉、医療全般を担当しております社会福祉担当部の大濱でございます。本日はよろしく願いいたします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では、市民の皆さんに密着した道路、公園の整備及び維持管理を担当しております。どうぞよろしく願いいたします。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは、教育委員会生涯学習政策課長の前田と申します。私、この4月にこの課のほうに配属になりまして、タウンミーティングも今日初めてで、デビュー戦でございます。皆さんに期待できるお答えができるかどうか不安だらけですが、精いっぱい頑張りたいと思います。教育委員会

では生涯教育の推進、次代を担う人材の育成を大きな柱として各種事業を進めております。教育に関する部分で皆様のご質問にお答えしたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

【消防局企画官】 皆さんこんばんは、消防局の岡本と申します。私は消防、救急、地域防災を担当しております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【市長】 以上、部長、課長たち6名でございます。松山市41地区あると申し上げましたけど、今回の浅海地区のタウンミーティングで22地区、半分を過ぎた形になります。このタウンミーティングで出たもので、さっそく市政に反映できるものは反映することにしております。例えば北条地区で申し上げますと、鹿島の渡し船の料金が高いのではないかと、渡し船の駐車場の料金がちょっと高いのではないかとという皆様の声を受けまして、社会実験を今いたしております、料金を下げる実験をしております。北条のタウンミーティングだったと思いますが、北条小学校の近くの道路がちょっと狭いということがありまして、厳しい財政ではありますけれど、拡幅の工事に入ることができるようになりました。このように出た意見をさっそく市政に反映していきたいと思っております。最後になりますけど、90分という時間でありまして、あまり肩ひじ張ってますと疲れますので、どうぞざっくばらんにしていただけたらと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【男性】 まず最初に、タウンミーティングを浅海地区で開催していただける形にさせていただきました、野志市長さん、市の要職の方に厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。浅海地区の特色ですけれども、浅海地区は562世帯、人口が1,367名となっております。高齢化もだんだん進んでいる状態ですけれども、その中で地域にできることは何なのか、野志市長が言っております、浅海の宝は何なのか、それをどうやって磨いていくのか、また、行政の力をどう借りていくのかこれが大きなテーマじゃないかと思っております。そこで浅海の魅力を考えたときにまず自然景観のよさが挙げられると思っております。山と海に囲まれた自然景観は日本一だと私は思っております。美しい景観だと思います。1週間前、中学校の同級会開いたんですが、本谷の上、山上がりまして浅海を、瀬戸内海を一望したとき、都会から帰った同級生がすばらしい景色だな、住みたいな、浅海帰って住みたいなという言葉が印象に残っております。それぐらいすばらしい自然環境

だと思えます。その中でも一つは名石の山、標高297メートルで浅海で最も高い山であり、また浅海のシンボルでもございます。浅海の皆様が関わって行って、その名石の山を浅海のシンボルにしようということで、小学生、学校が総合的な学習など利用して、昨年は6年生が卒業記念として桜の木を植樹したという形で市民みんなが名石の山を浅海の名所にしよう関わっているところでございます。この名石の山は中世の豪族の河野氏の居城があったところで大変有名なところでございます。そこから眺める瀬戸内海の景色は何とも言えないものだったと思えます。たぶんこの高い山から昔はのろしを上げて、昔の武将が起点としてそういう活動していたのではないかと想像されます。それともう一つは海ですが、浅海というのは浅い海という地名にもありますように海が大変きれいです。その中でも新畑海岸の素晴らしさというのは、私は小さいとき、プールなどがございませんでしたから、その海が遊び場所でもございました。大変美しい砂浜があり、その砂浜をどのように活用していくかということが大きな課題じゃないかと思っております。浅海の海岸を毎日のようにある住民がごみ拾いをやっている姿を見て、新畑海岸を思う気持ちというのは浅海住民の熱い思いなんだなということを考えさせられる次第でございます。浅海の海岸につきましては、小学生が総合的な学習を利用して清掃やごみを捨てないでという立て看板を立てたり、そういう活動も続けております。そこで、新畑海岸に海水浴場としての機能、更衣室とかトイレとか最低限のものがあれば、たくさんの者が新畑海岸で楽しむことができる、自然との触れ合いができるのではなかろうか。今、道の駅が大浦にありますけれど、夏場は満席状態になっております。国道に車をはみ出した状態になっておりますけれど、あの道の駅に勝るとも劣らない新畑海岸というものを改善、つけ加えていただきたいと我々思っている次第でございます。また、浅海地区というのは向こう3軒両隣という精神が生きています、人間の絆が大変深いものがございませす。無形文化財としての獅子舞が小学校にも受け継がれ、さらに若者が、獅子舞保存会の者が祭りには地域の方の好評を得ておりますけれど、そういうふうな地域が携わって、一緒になって活性化に努めている、これが一つの特徴でないかと思えます。その中でいろいろな問題点が出てくると思いますが、よろしく願いいたします。

【女性】 小学生や中学生とか地域の人とのかかわりが深く、地域の人のおか

げでイベントがたくさんあるところです。

【市長】 まず、小学6年生しっかりしてるね。うちの子も中学校1年生と高校1年生ですけど、だいぶしっかりしてるなと思いました、お嬢ちゃんのほうが。目の前にも中学生さんおいでますけど、人って同じ場所にずっと住んでいると、ついつい自分のまちを過小評価してしまうんですよね、うちのまちは何にもないわいとかって言うんですけど、そうじゃないんですよね。今ありましたように、山の美しさ、これが例えば、富山に視察で行かしていただいたんですけど、富山って急に高い山がそびえてるんですよ、そういう山だとなかなか登りにも行けないですよ。なだらかな山は人が寄っていきやすいですよ、危険度も少ないだろうし。そして砂浜があるというのもすばらしいことだと思うんです。私も北条に実家があります。で、砂浜が当たり前だと思ってたんですよ。初めて大学で外に出た、岡山ですけど、岡山も同じ瀬戸内ですけど、岡山の場合車で1時間くらい行かないと海に出れません。海も砂浜が当たり前だと思ってたんですけど、結構石ころの多い、はだしで歩くと痛い砂浜、砂浜というより石浜といいましょうかね、そして海の水がそんなにきれいじゃないんですよ。児島湖とか、海の汚れで有名になったところがあるんですけど、海のきれいさは、全国を知っている方が、この海のきれいさはすばらしいと。飛行機乗ることこれから増えると思うけれど、羽田の海の色と、この北条の海の色は全然違いますよ。大阪からの飛行機乗ると、プロペラの飛行機は低いところを飛びます。低いところ飛ぶと海のことよくわかるんですけど、こんなにきれいな海はなかなかないと思います。山も、北国のほう行くと山の色黒いんですけど、こっちのほうは鮮やかなきれいな色ですよ、そう言ってるだけでいいところどんどん出てきます。小学生からかかわりが深いのがいいっていう意見があったんですけども、中には、都会に住んでる方とかはかかわりがめんどくさいっていう人もいるんですけども、この絆がある、お互いを思いやる気持ちがあるというのはすばらしいことですので、個人とか孤独とか「個」「弧」が目立つ世の中になりましたけれど、もつとつながり、コミュニティとかコラボレーション、こういう意味での「CO」こういう時代に戻したいと思ってるんで、絆が残っているというのはすばらしいところだと思います。浅海はすばらしいところが今挙げただけでも、山も海も人のことも出てきましたので、すばらしいところがいっぱいだと思います。

新畑海岸のことについては私も深くは知らないんですが、例えば海水浴場にしようと思ったら、知らないのを教えてください、勉強させてくださいという意味で、危険性とか潮流が速いとか急に深くなるとかそういうところはどうか。その辺はあまり心配はない。大丈夫ですか。

【男性】 遠浅。

【市長】 遠浅、それこそ浅海ですね。以前は小学校のプールがないときはそこで授業をしようとした、比較的危険度は少ない。何が出来るか出来ないかわからないんですけど、必要なものとしては、これ皆さんと一緒に考えてみましょうか。海水浴場ができるとするならば、何があるといいですかね。

【男性】 まずトイレですね。

【市長】 トイレは今ない。漁港の横のところですかね。更衣室、シャワー。車で来る方多いと思うんですけど、駐車場はどんな感じですか、今は。

【男性】 敷地は十分にあります。その敷地が原集落の土地です。

【市長】 これはあえて申し上げます。風和里まで行こうと思ったら、車で何分で行けますか。5、6分。あえて申し上げます、風和里と共倒れになることはないですか。

【男性】 それはないと思います、あまり広くはないですから、駐車場も十分取れますし、地域の者がどういうふうな新畑海岸活用ということで、今プールも学校にありますけれど、海で子どもたちが遊べるということ、危険性もあるわけなんですけど、こういうところで子どもたちが自然に触れ合うということが今なくなっているんですね。だから、新畑海岸の開発によって、キャンプ場もつくれるだろうし、多目的な広場ができれば、新畑海岸の砂浜の美しさ、自然の景観のよさの活かされた自然環境と一緒に活動ができるんじゃないかと思います。

【市長】 ごみ拾いしてくださってる方がおいでる、感謝申し上げたいと思います。これ整備するとしたら、どういう形に。

【市民部長】 今、明確な答えは出せないと思います、持ち帰ってしなきゃいけない部分があると思うんですけど、住民の方と行政が協働するとできる可能性があるということはあると思うんです。ただ、その可能性というのは、国有財産ですね砂浜というのは、そこに物を建てるとそれなりの手続きを踏まないといけないということもありますので、このあたりは皆さんの今の議論持って帰って、

研究させていただけないでしょうか。そうすると所管とか、だれがやるか、どのようにやったらできるとかまた可能性もお持ちできると思いますので、この件はできるできないも含めまして、持ち帰らせていただきまして、慎重に検討させていただいた結果でまたお答えさせていただきたいと思います。

【市長】 持ち帰らせていただいたらと思います。行政がやる場合、例えば1年やってダメだったからやめたということができないので、行政が手を出す場合にはよくよく検討させていただいてという形になりますので、持ち帰らせていただいてお返事をお返しする形にさせていただいたらと思います。

【男性】 浅海区長会を代表して、浅海区長会として最優先課題として取り組んでおります市道浅海難波線、通称^{こうのさか}鴻之坂線の改良についてお伺い並びに要望をいたします。現在、鴻之坂線は難波側の北条育成園までは2車線に整備されておりますが、育成園から浅海までは道幅が狭く、その上カーブが多く交通事故が起きており非常に危険な道となっております。国道196号の大浦から浅海の間は、台風など風雨の強いときは海水が国道まで打ち上げ交通事故の面からも心配です。過去には海水に車が飲み込まれ死者を出したこともあります。近く発生が予想されております、南海、東南海地震が発生した場合、海岸線の国道196号が不通になれば鴻之坂線が浅海地区にとっては命の道になります。また、北条難波までは国道のバイパスが整備され松山市の中心部とのアクセスが非常によくなっておりますが、浅海地区にとっては恩恵が少なく、若い者は生活の場をほかの地域に求めるようになっております。その上過疎化に拍車がかけております。このような現状からすれば鴻之坂線の早期完成は浅海地区住民の切なる願いであります。現在の計画が1年でも早くなりますよう、浅海地区区長会を代表して要望いたします。

【市長】 これについては、道路を担当しております白石課長からお答えをいたします。

【都市政策課長】 ただいまの道路の整備についてですけど、合併当時、平成17年当時から話は聞いております。それで、平成23年度、既に測量と土地の調査を行っております。また、延長的には長いんですけど、2車線道路は非常に難しい中で、見通し、視距改良、カーブのきつところを少しカーブを緩くするという方法で5カ所行う計画にしております。24年度、1カ所着手する予定でご

ざいます。あとの4カ所につきましては、1年1年かかってくるとは思いますが、できるだけ早く完成させたいと考えております。

【男性】 市道海岸線退避場所の設置工事、原真沖側^{はらまおき}2カ所、市道海岸線は道路の幅が狭く自動車の対向ができないのが現状です。最近は釣り人も多くなり、早急な退避場所の設置工事の必要性が高まっています。22年度に原地区区長が申請を提出しております、地区住民の願いです。ご理解いただき工事の早期着工に取り組んでほしい、よろしくお願いします。

【市長】 これも道路のことです、白石課長。

【都市政策課長】 先ほどの鴻之坂線につきましては、平成17年要望を受けまして、23年度より工事の準備にかかっているところです。ただいまの海岸線につきましても23年に要望がございまして、現在、松山市、年間20数件の要望がございまして、そういう中でまだ積み残し事業も50件程度ございまして、そういう状況ですので、今後、緊急性とか優先順位等考慮しながらできるだけ早く着手していきたいと思っております。

【男性】 名石山を護る会です。名石のことについてもっと詳しく経緯を説明します。浅海の誇れる地域の環境と名石の歩み、用意してるんで棒読みさせていただきます。私たちの地域は瀬戸内海と緑の山々に囲まれた、1年を通して温暖な気候と自然環境に恵まれたところであり、いつも新鮮な野菜に果物が採れる小さな農地が分散している農業地帯です。そのような中で、浅海富士と呼ばれている名石の山が集落の歴史とともに浅海のシンボルとして現在に至っています。かつて集落の農家の人々は夏の閑期において山に登り雨ごいを行い、お米の豊作を祈り名石とともに農業を営んできました。浅海の人々の長年名石に登るとともに名石の保全活動も行ってまいりました。このような名石の山と集落には農業の形態の変化で、長い年月の間、雨ごいもなく登山者も減少し山の管理もできなくなる、残念ながら名石の山の荒廃、山頂のお堂も腐った祠となってしまいました。そこで名石の復興に向けた取り組みが始まりました。このような中でお堂の朽ちた状況を見た方々から厳しい進言、指摘があり、集落の方々が積極的に取り組みが必要と方向が拡大し、平成23年に集落の役員を中心に登山道の大幅な改修、新設に名石山頂の雑草の除去、整備等の作業実施、山頂のお堂改修計画賛同者の協力依頼、資金集め等を経て、平成23年10月23日お社を山頂へ運び念願の落成

を行うことができました。復興に向けた活動は厳しい内容もありましたが、改修作業、落成式などを通じ浅海小学校の参加、集落の子ども、お年寄りなど多彩なグループ、大勢の参加者もあり、山頂からの我ら浅海集落、瀬戸内海の島々等絶景を体験することにより、名石の山のよさが心の癒し喜びとなり、新たな地域の活性につながる宝磨きのまちづくりに進展していけそうな感じがしています。名石の復興の取り組みから最近喜ばしい活動として、1、浅海小学校の6年生の卒業記念樹、山頂への50名余りの参加者があり、6年生のよい思い出ができ、これから名石の理解者となっていただけることと確信しております。2、各種団体の試み登山、老人クラブ等登山計画が話題となっています。3、今後の取り組みとしてより安全な登山道の整備、植樹等の新たな作業取り組みの協賛者の協力を得て取り組むこととしています。最後に市長さんにおきましては、先ほど、「たからみがきのまちづくり」の中で、風早レトロタウン構想の推進を挙げていますが、その一隅の中にぜひだれもがあこがれの住みたいと思うまちづくりを目指している名石の山を護る会の取り組みについてもご理解いただき何分ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

【市長】 これは三好部長から、あの^{あわじがとう}淡路ヶ峠の話です。実は桑原に淡路ヶ峠という山がありまして、淡路ヶ峠を桑原地区の方々が活用というか守ってるんですね、この取り組みをご紹介させていただこうと思います。

【市民部長】 山に対する思いを述べられたのは、3カ所目だと思うんですが、今市長の言った桑原の淡路ヶ峠、生石地区でありました^{はぶやま}垣生山。山は昔から愛着があるということで、桑原の人たちが淡路ヶ峠を何とかしたいということで、登山道の整備なんかを自分たちでやりましょうと、だれに頼んでもなかなか難しいというんで、改良区とか、PTAのおやじの会とかそういう人たちがお金を持ち寄るのではなくて、労働力を持ち寄っていきましょうという動きを始めておりまして、毎年少しずつ少しずつ山道整備して、そこに桜の植樹を子どもさんたちと一緒にやっているところです。ただ、自分たちの力だけでは十分できないということで、行政が取り組んでいるのが農道の整備ができないかとか、あるいは原材料を支給して地元の人たちと一緒にやれないかということ、こういう実例があります。こういうふうな、住民たちが取り組めば行政が参加できるという仕組みがありますので、どういう形でやりたいかということをお話してみたら

解決策があるんじゃないかと思います。垣生山というのも、飛行場のすぐ横に垣生山公園というのがありまして、昔は出城があったんですけど、そこから空港が真下に見えます。地元の人たちの愛着がある場所で桜の非常にきれいな山ですけど、どうしたらいいかということで今関係者と話して、何かいい方法がないかということでやっておりますので、ぜひそのあたり皆さん方が協力して行政と同じ一つの窓口でやっていくと解決策が見えると思いますので、これも持ち帰りましてお話しさせていただきたいと思います。

【男性】 地区の活性化という観点から2、3質問やらお願いやらをしてみたいと思うんですけど、浅海というと割と小さなまちですから、活性化というとお祭りとか各種イベントが手っ取り早い活性化になってくるんじゃないかということで、まず1点目が、8月に公民館が中心になって、ふるさと夏祭りというのをこの公民館のグラウンドでやってるんですけども、公民館が中心になって小学校のPTA、商工会の皆さん、それと地区の役員の方、それと我々のような若い衆が中心となってやって、もう10年ほどになるんですけども、そんな中で場所的なもので、夜やってるもんですから照明の設備ですとか、あと演芸もやったりするんでステージを我々手作りでやってるんですが、そういったハードは割と限界があると思うんで、そういうところが市の資金でできないだろうかというのがまず1点です。2番目は、秋祭りのことですけども、地元の葛城神社でみこしが出てお祭りをしてるんですけども、そのみこしが老朽化しておりまして、なんとか新調をして地域の活性化に役立てたいという思いもあるんですけども、聞くところによると、松山市でみこしとかをつくる時に助成金が出るんじゃないか、旧北条市が松山市になったときに何件かそういう事例があったというのを聞いてますんで、どのような助成の仕方があるのかということと、あと、優先順位、どんなふうになってるんだというのをひとつお聞かせを願いたいと。あと1点が、浅海に獅子舞の保存会がありまして、行く行くは市、あるいは県の無形文化財に指定していただいたら、これから後進がやっていくにも励みになるんじゃないかということで、三津のほうに虎舞、伊予源之丞が指定されてると思うんですけど、どんな方法で登録というか申請をしたらいいのか、また、その審査の方法、獅子舞各地にたくさんあるんでなかなか難しいんじゃないかと思うんですけどそのあたりをお聞かせ願えたらと思います。

【市長】 はい、わかりました。3点お受けしました。先ほど申し上げたように個人とか孤独が目立った世の中でしたけれども、これからコミュニティとかコミュニケーション、コラボレーションが大事だと申しあげました。地域のコミュニティを大事にしていきたいと思っています。これは比較的できる可能性が高い話になります。まず、照明のことは前田課長から。

【生涯学習政策課長】 教育委員会です。地域活動に活かせる照明とかステージを市の備品というお問い合わせだったと思います。公民館を所管しております担当課といろいろ話、備品ってというのはどういったものなのかを確認もしたんですが、一般的に公民館で汎用的に使われるものを市のほうで用意しましょうというのが基本的な考え方です。したがって地域の特性もあろうかと思いますが、現段階でこの照明とステージを市のほうで設置できるかということ、即答として「わかりました、じゃあやりましょう」というのは難しいというところが現状です。ただ、私も今日初めて参りまして、この前も非常に暗いということはございますので、LED照明による灯光器については整備を前向きに考えたいということは申しておりました。ただご質問の内容等とは若干かい離があろうかと思しますので、そういう点でご了承をいただければと、お願いしたいと思えます。

【市長】 前田課長、これLEDの照明については何基とかがって今言えますか。

【生涯学習政策課長】 現状考えているのはLED2基をつけようということで、ただこれもLED2基つけたからいろんなことできるかっていうほどの照度はなくて、防犯灯的に前玄関あたりを照らすようなものということでご理解をいただければと思います。

【男性】 常設をされるということ。

【生涯学習政策課長】 そのように聞いております。それからみこしの老朽化ですが、おっしゃられましたように、これは県のコミュニティ助成事業というのがございまして、地域のコミュニティ活動に資するものにつきましては限度額がございまして、助成の制度がございまして。

【市民部長】 宝くじのコミュニティ助成のご存知だと思いますので。みこしとか、盆踊りのときのやぐらとか太鼓とかそういう祭りの用品を、国の外郭団体の自治総合センターが地域コミュニティの活性化ということで募集しております。昨年度は2件だったんですけど、今年は8件の採択をいただきました。そ

の優先順位というのが、まず、コミュニティの活性化に資する、役に立つということが一つの条件。で、2番目にそれが有効に活用される、一部の人のためだけではなくてその地区全体に使われること、こういったいろんな条件ございまして、10月に全体に募集をいたしまして、今年遅かったんですけど今年は4月過ぎてから内示がございました。先ほど8件って言ったんですけども、応募が30件余りのうちに8件でございます。これは最初かなりいい確率で採択されておったんですけども、やはり希望が多くなって30何件という応募がありました。その優先順位としましては、今言ったような各種項目で優先して国のほうにあげるようになっておりますので、また相談していただきたいと思います。ちなみに北条地区では今年1件、お祭り関係で採用されております。第2点目の無形文化財などの活動についてですけれども、これは補助金を増やすという現状にはございません。ところが、例えば、まちづくり協議会でその活動計画をやった場合に、その活動計画に対して助成を出すという仕組みもございまして、このあたりまた地域の方と相談させていただきたいと思います。あと公民館の活動とかいろんなことございまして、地域がまとまれば何らかの答えが出るという可能性ございまして、そのあたりはまた改めてご相談申し上げたいと思います。

【市長】 はい、みこしの老朽化について、私もこれ関心が高いところで手元に資料があるんですけども、宝くじの売上金をもとにして全国の自治会や町内会に助成をしているものです。国もコミュニティって大事だと思ってますから、みこしや獅子舞などの地域の伝統文化に必要な備品とか、テント、はっぴなど地域のレクリエーション活動に必要な備品で、金額は100万円以上のものが対象になります。250万円を限度に助成をする制度がございまして。先ほど8件、三好部長からありましたように例年ちょっと少ないんですけども今年は「よかったね、要求採択してくれてね」って言ったんですけども、幸い今年は8件まで採用してくれました。そういう制度もありますので、これについて申請っていうと難しいような感じがあると思いますので、どうぞ事前に相談していただいたらと思います。事前に準備しとるほうが間に合うと思いますのでまたよろしく願います。

【男性】 災害の避難場所についてですが、昨年8月ですが小学校まで避難訓練をしました。だけど、その小学校の校庭が海拔何メートルかというようなこと

が一般に知られてないと思うんですが、それで浅海地区で避難場所といえこの公民館とか2, 3カ所ありますが、そこがどのくらいの海拔があるか具体的な数字を出してもらって参考にしたらどうだろうかと思います。それと、もう1件、海岸の護岸工事の内側の側溝ですが、これは国土交通省の関係だと思っんですけど、あそこの排水の港側の出口のこの開口口が案外大きいんです。港周辺はこの前の高潮であふれて今のところへかさ上げしてもらったけど、その開口口そのものは昔のままの高さです。それで何年ころだったか忘れちゃったけど、台風と高潮とが一緒に来て、その開口口から海水がどんどん逆流して海岸から30メートル余り内側へ入ったことがあるんですが、あの開口口を何とかして逆止弁のようなものをつけて海水の浸入を止めることができないかをお願いしたいんですが。以上です。

【市長】 はい、2点いただきました。まず海拔のことについて、今松山市でも取り組もうとしているところです。岡本企画官から詳しく言ってもらいますけれども、二つのやり方がありまして、行政が主導して、海拔ここは何メートルですっていうのを行政が主導してやっていくやり方と、松山には各地に自主防災組織がありまして、この道を通って逃げたらいい、ここが避難場所、地元のことから一番よく知っている方々です。その自主防災組織の方々が海拔を表す動きをしているのでそれに市が助成をしますっていう動きもあります。この二つの動きがあるんで岡本企画官から。

【消防局企画官】 海拔表示につきましては、今、自主防災組織3組織に市から助成金を出しまして、高浜地区と宮前地区、そして堀江地区の自主防災組織が自主的に取り組んでおられます。海拔表示の枚数、フェンスに貼る表示とか、電柱に貼る表示、その辺も使用許可も取らなければなりませんので、行政のほうで指導して費用のほうも若干の助成ですけどさせていただきまして、枚数によったら足りない分は地域の自主防災組織が出して表示していただくような動きはございます。先般、津波高とか地震分布、震度が国、検討委員会から想定が変わった表示が出ましたんで、国が5月をめどに正式な数字を出そうかと思っます。その数字をもって、愛媛県が地域防災計画を見直します。それと動きを同じくして松山市も地域防災計画を見直しますんで、そのときに合わせまして海拔表示の市の助成の仕方とか、取り組みについて合わせて取り組んでまいりたいと思っておりま

す。逆流をしたという防潮堤の件ですが、これは防潮堤の高さ、防波堤の高さによってそこが低いとか高いところが松山市内にもございます。そういったところは市だけでなく県、国との調査と改修計画がございますので、これも今度の想定の変更に伴います再調査の結果によりまして、逆流するとか越水いったところを今後改修していく予定であると思っております。

【市長】 この後岡本企画官に「さっき私が言ったんはこの場所なんよ」ってお伝えいただいたらこちらのほうで把握ができますので、今日終わりましたときに、企画官に言っていただいたらと思います。よろしく願いいたします。それで、私からお願いですけれども、去年の3月の頭に松山市は全戸に防災マップを配りました。これが防災マップなんですけど、その後3月11日に東日本大震災が起こったんですが、だからといって全然これが役に立たないというものではございません。ちょっと中見ていただいたら、以前にも防災マップというのはあったんですけども、例えばこういう黄色い色つけてますけども、これは前の防災マップはもっと派手かましい色だったんです。でもちょっとおとなしい蛍光色にしました。これは目の不自由な方はこういう色のほうが見やすいんだそうで、そういうところまで配慮してつくった防災マップです。愛媛大学に矢田部先生という防災の専門家の先生いらっしゃいますけど、その方々とも一緒になってつくった防災マップです。これぜひ皆さんのご家庭にもありますので、役立つ情報、どういう備えをしておいたらいいのかっていうのは書いてますのでぜひ活用していただきたいと思えます。ページ1枚めくると、ちょっと衝撃的なデータがあるんですけど、75パーセント、4人に3人の人は何らかの災害に遭遇すると思ってるんですけども、じゃあ地震に備えて家具の固定をしてますかっていったら2割の人しかしてないんです。やっぱり皆さん心配なんだけど、備えが完璧かって言われたらそうでもありませんのでぜひこの防災マップを活用していただいたらと思っております。地震の津波のことですけれども、皆様ご心配のことと思えます。私も被災地に2度、南三陸町に行ってきたんですが、これは気象庁のホームページにも出ておりました。やはり津波の高さと速度というのは海の深さに関連がございまして。ですから地震が起こった、津波が想定される場合にはできるだけ早く高いところに逃げていただく、これ大事なんですけども、あまり恐れすぎると「過ぎたるは及ばざるがごとし」でありますので、やっぱりきちっと情報を捉えてい

いただくことが大切です。冷静にしっかりとした対応を取っていただくのが大事ですので、ぜひともこの防災マップを活用していただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。そしてもう一つ、皆様からは、早く想定の見直しをっていうのがあるんですが、これは松山市としてできることはすぐにやってまいりました。私も3月11日の東日本大震災のときは東京におりまして震度5の揺れを感じた。結局羽田空港のロビーで一夜を明かすことになった経験がありますので、ひとしおの思いがあります。やはり国が先に基準を設けてくれないと、市が改めた、その後県が改めた、国が改めたってなると、基準がばらばらになってしまいます。どの基準をもとに動いたらいいのかっていうのがばらばらになってしまいますので、市としてはできることはできるだけ早くする、国の基準を待って県と一緒にやって市と一緒にやってやるというスタンスでできることはやってまいりましたので、国の指針が出次第すぐに変更していこうと思っております。

【男性】 現在浅海地区の民生のお手伝いをさせていただいております関係で、お年寄の方とお話をし、お会いする機会が多い中で、今切実な課題となっているのが高齢者の日常生活での交通手段の確保の問題です。例えば身近にスーパーがない、あるいはお店がないために日常生活に必要なものが買えない、あるいは病院がないので万が一のことを考えると不安である。更には交通機関も不便でバス停がなく、また駅の構内には階段があって渡るのが大変であるなどの現状踏まえて、私からは2点についてご要望したいと思っております。まず最初ですが、地域住民が安心して生活するために必要な公的機関からの巡回バス、あるいはコミュニティバスなど、サービス提供による交通手段の確保についてのご対応をお願いしたい。二つ目が浅海地区と同じような状況下にあるほかの地域での取り組みがあればご紹介をいただきたいということでもあります。なお、当地区では65歳以上が494名、高齢化率が36.4パーセントでこれは旧北条地区第8ブロックの7地区がありますが、立岩地区に続きまして2番目の高齢化率、これが現状でございます。

【市長】 私からお話をさせていただいて、足らざる部分は部長、企画官、課長でお願いします。実はバスの運行でいいますと路線バスは毎年数億円規模の赤字を抱えているのが現状です。だからといって松山市は何もしないわけではありませんで、地域の住民の方、またバス会社、松山市でそういう会議をつくりまして、

もっとこう便利にするためにはもっと利用どうしたらいいんだろうかという協議会をつくっております。この時間よりかこの時間帯にこう動いてもらったほうが利用者、市民の方は助かるようですよ、ということバス会社に伝えて、路線を変更、時間を変更することもできましたし、そういう活動しております。それが1点と、確か駅前のハトマートが毎週金曜日だったと思うんですけど、立岩までバスを出して買い物ができる仕組みをつくったのを聞いたことがあります。そういう例があるようですので、浅海も例えばそういう取り組みが、スーパーがどう判断されるかっていうのもあると思いますけども、そういう取り組みもあるということです。

【都市政策課長】 先ほど申されました日常生活の交通手段がないことで、浅海地区におきましてはJRになるわけですけど、確かにバス路線がありません。その中で今市長が説明しましたように、新たなバスの運行は非常に難しい状況の中で、松山市におきましても公的なバス事業は行っておりませんが、近年全国的には地域や例えばNPO等が主体によるバスの運行等の事例もございますので、担当が総合交通課になるんでご相談があればまた気軽に寄っていただけたらと思います。

【市長】 私から松山市の財政が、皆さんからいろいろ要望言っていて、私も人間ですから「これやります、あれやります、これもやります」って申し上げられたらいいんですけど、なかなかそうもいかないという、今の地方の自治体の財政の状況について説明させていただきます。中学生さんにも、小学生さんにもわかるように言います。松山市の1年間に入ってくるお金を歳入と言います。よく皆さんも耳にされるとは思いますけども、国がどれだけの借金を抱えているかというとおよそ1千兆円と言われていて、1千兆円。この1千兆円という借金になるまでにだれか止められなかったのかと。1千兆円割る人口1億人と考えると1人どれだけの借金を抱えてるかと思うと、本当にだれか止める人はいなかったのかと思うぐらいです。国がそれだけの借金を抱えてますので、国庫支出金とか地方交付税交付金っていう形で各地方自治体にお金が配分されてくるわけですけども、大元がそれだけの借金を抱えてますから、地方に回ってくるお金がこれから増えるとは考えにくい状況にあります。1年間に出て行くお金を歳出と言いますけれども、松山市は中四国の中では財政状態いいって言われておりますけれ

ども、この歳出、1番大きなウエイトを占めているのが民生費、これはいわゆる福祉にかかるお金です。これが40パーセントを占めています。この中に生活保護費も入るわけですが、この福祉にかかるお金は松山市でも1年間で50億円増えました。さっき申し上げたように、地方に回ってくるお金が膨らむとは考えにくい中で、50億円福祉にかかるお金が1年間で増えたということは、どこかで50億絞らないとバランスが取れない、下り坂になっていくということです。生活保護費も1年間で松山市だけの話で、20億円増えたんです。ということはこれも20億どこか削らないとバランスは取れないことになります。今、200億超えたんです松山市、生活保護費。大事なお金ですが、この上がり方は一地方自治体の努力の範囲は超えていると思っています。だから今「税と社会保障の一体改革」がよく出てくるわけですが、私の立場としては、もっと国はやるべきことがある、定数削減とか世襲制限とかそういうものを、削るべきものを削ってからじゃないと、皆様に増税の論議はご理解いただけないだろうと思っています。やるべきことをやらないかん。こういう中ですから、やっぱり昔の高度経済成長の時代とは違います。私も皆さんからいろんな要望を受けて「これやります」「あれやります」「これもやります」言えたら楽です。でもこれをやると、将来の子どもや孫につけを残してしまうことになりますので、それをするにはならない。でも何もしないというわけではありません。全体の中で、今これをすべきだという優先順位をつけてやってまいります。松山外環状道路もその一つです。全国の24の拠点空港の中で、「インターチェンジと空港、どれだけ時間がかかりますか」というデータがあります。これは「30分以上かかります」といったところが全国に4つだけあります。一つは松山空港、あとの三つは北海道の3空港です。北海道と一緒にしちゃいけません、あんなに広い北海道ですから。松山はインターチェンジと空港の間が時間がかかりすぎる。考えてみてください、インターから33号で朝生田に入ってきて、環状線で回って、新空港通りで空港に行きますから、わざわざ入ってこんでいいのに入ってきている。それをそうならないために外環状線をつくる。ただ早くするということだけじゃなくて、いざというときの緊急の避難路にもなります。渋滞が減るということは交通事故も減っていきます。排気ガスの問題もそうです。いろんな5つくらいの点があるので、外環状道路を今つくってるわけですが、このように何もしない

わけではない。優先順位をつけて、今何をすべきかを考えてやっているのが、各自治体の状況です。ですので皆さんから言われて、「市長なかなか堅いな」と思われるかもしれないですけど、軽々に「はいやります」とは言えない状況にあるというのをわかりただけならと思います。大体この話をすると皆さんの手の挙がるのが若干鈍くなるんですけど、それは気にしないで手を挙げてください。やはり皆さんの声をいただいて市政に反映していくのが大事であるので、遠慮しないでこれからも声を上げていただけたらと思います。

【女性】 小学校のときに浅海に図書館とかたくさんの方が自由に利用できる施設があったらいいなというのを考えていて、そういう図書館など、お年寄りから児童までが安心して利用できる施設があったらいいなと思います。

【生涯学習政策課長】 図書館で本読んだり勉強できたり自由にできる場所が欲しいというご質問だと思うんですけど、先ほどの市長の話のあとでこういう質問いただくとお答えがしづらいところですが、正直申しまして今、松山市の中で新しい図書館をつくろうというのは非常に難しい状況です。ただ図書に関して言えば移動図書館がこの地域にも来ていると思いますので、その移動図書館の図書を活用して本を選ぶ、小学校とか中学校とかで団体貸出というサービスもやっています。学校の規模によって50冊とか100冊の単位でもって、インターネットで申し込めば図書館から本を貸し出してもらえますので、学校の図書室でそれが自由に活用できるのであれば、そういうところでの利用または勉強というのもできるんじゃないかと思っております。地域には、ここも浅海公民館という立派な施設があるんですけど、こういうところを活用して学習の場とか、交流の場としてできるのであれば、活用の一つの手段になるのではないかと思っております。いずれにしても経費的な部分で新しい施設に関しては、厳しいところがあるんですけど、工夫によって皆さんが思われている部分が可能になることもあるかもしれませんので、いい案をまたご相談をいただければ相談に乗ることはできようかと思っておりますので、そういったことでお願いをできたらと思います。例えば学校の図書室を土曜日、日曜日に開放して学習の場に提供するといったことも一つの手だてかと個人的に思ったりはしております。そういったことでご理解をいただければと思います。

【市長】 北条に図書館があるのはご存知ですかね、北条の図書館もぜひ利用し

てください。実は新たな制度を実施することになりまして、松山にはコミセンに大きい図書館があります。そしてあと三津浜と北条と中島に図書館があるんですけども、場所によっては公民館の中に図書室があるところがあります。そこは、よく借りてるところほど新しい本が来やすいという制度になってますので、そういうところ見つけたらどんどん利用してほしいんですけども、できるだけ知恵と工夫でやっていこうということで、こんな制度を始めることになりました。移動図書館というのがあります。さっき申し上げた三津浜や北条や中島は図書館があるんですけども、南梅本とか北久米とか朝生田、このあたりは図書館がないので、移動図書館を充実させることになりました。皆さんが利用しやすいのは、フジグラン重信とかサニーマート松山久米店とかジョープラとか、そういう大きいショッピングセンターに行ったら大きい駐車場があって、結構皆さんも集まってこられます。ですので、ショッピングセンターにお願いをしてオーケーしてもらわないといけないんですけども、こういう制度もスタートしました。できるだけ皆さんの声を活かして図書館もこちらから出向く形にしておりますので、また北条の図書館も利用してもらったらと思います。

【男性】 JAえひめ中央管内で農業しております。この地区も産業としては果樹栽培が主で、現在、県市のブランド品であります、紅まどんな、カラマンダリン、せとか等やっております。これにつきましても今後量が増加していくと思われまますので、販路の確保とか価格最低保障を農協と市がタイアップして進めてもらいたいと思っております。そして市長、トップセールス毎年行ってもらいましてありがとうございます。これも今後継続してもらいたいと思っております。今後、浅海地区におきましても後継者がぼつぼつ増えておりまして、若い人がUターンとして5、6人帰っております。この後継者を育てていくためには市からのいろいろな補助金等が必要になってまいります。現在も補助金をたくさんもらっておりますが、この補助金、品種改良、施設の補助、鳥獣害補助等いろいろ市からいただいております。今後とも継続して続けてもらいたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

【農林水産担当部長】 浅海地区だけではなくて全市的に、かんきつについての品種改良、有望品種への品種改良とかにかなりの補助金を積極的に組んで投資をしておりますので十分にご活用いただきまして、営業収益に充てていってもらい

たいと思います。まだ有望品種、実は県の計画によりますと、有望品種というのが先ほど言われました紅まどんな、せとか、カラマンダリン等ですけど、もともとは温州とか伊予柑が主でしたけど、有望品種を増やすことによって、農家の所得を上げるといったことで、今言ったような補助金を使って推進をしておりますので、まだ県が言う65パーセント、35パーセントという目標値、至っておりませんが、今後市の予算の許す限り、継続していきたいと思っております。それと先ほど言われました担い手の件ですが、すでに担い手の育成研修とか農業後継者の育成研修ということで補助金等出しておりますけども、実は24年度から国で、新規就農総合支援事業という、新たな支援事業を立ち上げております。これは、青年の方が就農されるためにはやはりそれなりの原資というものが必要となりますから、そのための研修、就農前に研修を受けるための費用、それが最大で年間で120万円、それと就農した後にも、かんきつは5年、8年、10年と果実ができて収益があがるまでにかかります。その間の、全体を持つわけにはいかないですけど、おおむね5年をめぐりに所得を確保するための給付金、これが大体年間で150万を支給する制度がこの24年度から立ち上がっております。そういう情報につきましてどんどん皆さんにお知らせをすることで、担い手の育成増大に寄与していきたいと思っておりますので、またよろしくお願ひします。

【市長】 私から、「農家の皆さんへ松山市による支援メニュー」があるんですが、これ見られたことありますか。浅海は北条の中でも結構農業に従事している方が多いので、これぜひ見てください。いろんな支援メニューがありまして、例えば生産面、経費の補助とか、農業用基盤整備とか、研修人材育成とか、指導などの支援とかいろんなものがありますので、参考にしていただけたらと思います。今、トップセールスの話がありましたので申し上げさせていただきますと、昨年度1年間で11回トップセールスに行かせていただきました。例えば札幌のデパートで松山の物産と観光展があるんですけど、よく売れるんです。ここでもかんきつを販売してきます。東京の大田市場、青果の取り扱いでは日本一のところですけど、朝の6時半からせりがあるんですよ。せり人さん、仲買人さんがおって、目が厳しいんですよ。せり人さんたち、ベテランの、40年、50年のせり人さんですから、僕を試してくるんです。「市長さん、このカラマンダリンというのは何と何の品種の掛け合わせ」とか、「この品種は味にばらつきはないの」とか。「いや、ち

ちゃんと選果機かけてますから、センサーかけてますから味にばらつきはありません」とかそういう話をしたり、2分間だけ時間くれるんですよ。私何分間にまとめてしゃべるのは得意ですから、これは全国の市長の中でもうまいと思います。東京の大田市場で2分にまとめてしゃべるし、こうやって試食をしてもらうんですけど、そこでも上手にやります。デパートで販売をする、大田市場でPRをする、そういうのを神奈川県横須賀、松山と坂の上の雲の関係で仲良くさせていただいているところですけども、いろいろとさせていただきました。私は実家、田んぼ、畑、みかんもやっております。うちの父と母がやっておりますけども、自分に農業体験があるんです。どんだけかんきつ運ぼうと思ったら重いとか、山に登るんがしんどいとか、みかん二度切りせないかんとか、朝早くから収穫して夜選別せないかんとか、寒い暑いがあるっていうそういう農業体験、しんどさを知ってますから、トップセールスも一枚の資料をもらってやることもできるんですが、私はそれはしません。必ず生産地に行って、直接苦労や工夫を聞きます。それをせり人さんたちに伝えると「それやったらこんだけの値段がついてもおかしくない」って思ってもらえる。ちゃんと皆さんの苦労や工夫に報えるお金をつけてもらえるように、できる限りこれからも努力をしていきたいと思っております。安いものを大量生産か、高品質なものをつくっていくかって言ったら、これからすべきことは高品質なものをつくっていくべきだと思います、今部長が言いました通り、平成3年はみかん、伊予柑が95パーセント、いわゆる紅まどんな、カラマンダリン、せとかといった有望品種が5パーセントやったんですけど、今県が目指しているのはみかん、伊予柑65パーセント、有望品種35パーセントです。今75と25まで来ましたから、あと10パーセント広げていければと思っております。あともう一つ、かんきつやってる方にこれから出てくるのは、ライムです。今かんきつ育てている方比較的育てやすいそうですけれども、ライムが今日本一です。アボカドも今日本一です。アボカド、ライム、このあたりも増やしていけるのかな、そしてブルーベリーも日本の中では指折りの生産量を松山市誇ってますので、これは収穫が軽くてすみますから、ブルーベリーも伸ばしていけたらと思っております。とにかく農業する方があれだけしんどい仕事ですから、夢や希望を持って働ける状態をつくっていきたく思っておりますので、これからもよろしくお願いたします。

【男性】 旧の北条市のときと比べての高齢者の救急医療体制についてお聞きします。昔は旧の北条市に病院があって診療してくれたんですけど、今は全て松山市内と。それと何かあったとき救急車呼びましたときは、北条からここまで来るのにたぶん5分から7分くらいかかると思います。それから今度救急の病院行くときは松山市内まで行きますんで10分程度かかるんですけど、これの改善とか救急体制の維持、これについては今後はどういうふうになるんですか。それとやっぱり私も仕事では外にいます。両親はこちらに残しとって、両親がいざというときにはそういう救急体制が整っていなければ私ら心配でなかなか眠れませんが、そのあたりの救急体制の維持は今後していくのかどうかと、それと先ほども鴻之坂線の話もありましたが、あの道が通ることによっても救急車が少しでも早く着く。一人でもたくさんの命が助かる、ひいてはそれこそ市長のホームページの話じゃないですけど、「一人でも多くの人を笑顔に」というのでページ開いとると思いますけど、そういうのが広がっていくと思いますので、ぜひそのあたりの話、また救急体制が旧の北条市にできるかどうかというのを併せてお願いします。

【消防局企画官】 救急体制といいますと救急車の到着する体制ですよ。支署が増設できるかということですか。今の松山市の救急需要で各消防署の支署とか署を設置しております。10分救急体制という体制で、湯山また久谷救急出張所を新設して、到着時間の短縮を図るところで取り組みまして、病院到着時間というよりは救急救命士が到着する時間を10分以内にするというのが第一目標で、平均時間が大体7.5分くらいで到着しています。これ中島町と合併して消防救急艇を使用して、全体22,221件の平均が7.5分くらいで到着するようになってます。ですから救急救命士が応急処置、救命処置できますから、救急救命士が乗った後の到着時間というのはそんなに気にならないと言いますか、救命処置ができますので。そこから先の医療体制の搬送というのは一次病院、二次病院、三次病院とあります。三次病院は県病院の救命センターですが、二次病院が14の病院を毎日輪番制で回しています。ですから北条地区に真っ先に到着したいという場合は、患者さんのかかりつけの病院が一次病院になりますので、事前に連絡をしていただければ救急車でそこに搬送できる体制はとっております。

【男性】 テーマ2の地域活性化となるんでしょうか、私も浅海獅子舞に関わっているものでございます。そして今回愛媛マラソンで浅海も10名くらい参加し

たんですけれど、そのときにTシャツをつくったんです。このデザインはですね、浅海のビンデザイン、印刷も浅海のデザインで、これ浅海の「A」と波の印です。市長さんにプレゼントさせていただいたらと思うんですけど、こういう形で浅海の活性化ということでこれからもがんばっていきたいと思います。よろしく願いします。

【市長】 獅子舞については、これやはりコミュニティ助成に。獅子舞のバックアップとか。

【市民部長】 獅子舞の本体ですね。みこしの話が出てましたけれども、同じようにコミュニティの活性化のために必要なものとして、獅子舞とかみこしとか、それから盆踊りのときのやぐらとかですね、いろんなものがございます。ただ優先順位については先ほど申しましたように、いろんな地域の活性度とか、必要度とかがございまして、希望者の方に全部添えるわけではないですけど、何年か応募しているとコミュニティ助成で採用される場合がございますので、このあたり市民参画まちづくり課でご相談いただきましたら、いろいろアドバイスもできると思っております。よろしく願いいたします。

【市長】 最後に私から、尋ねごとですけれど、実は今回浅海に来るにあたって、何にも知らんようでは失礼かなと思って勉強させていただいたんですけども、私がすごく興味深かったのは大正末期には梨が非常に有名で、「浅海の梨を食べずして梨を語る資格なし」って言われたそうですけど、これうまいこと言うとなんと思ったんですけども、みかんに転作をされていったということですけど、これだけ梨が盛んだったんなら、どこかに今もできる梨の木ってありますか。昔は梨で盛んだったっていう掲示みたいなものってあるんですかね。

【会場】 校歌になっとる。浅海小学校の校章も梨の花の形。

【市長】 校歌にあるんですか、これはいい話を教えてもらいました。そうですか、学校には梨ありませんよね。

【会場】 あります。何年かに1回実ができて。

【市長】 あるんですか。これは珍しいですね、何年かに1回なんですか、毎年はやっぱ難しい。これはいいことを教えていただきました。はい、やっぱりこういう歴史のあるものって大事かなと思いましたので、梨の話聞かせていただいて、校歌にもある、校章にもある、学校にもあるという話を聞かせていただい

で大変ありがたく思いました。

結びのお話をさせていただきますけども、まず途中で申し上げたようになかなか厳しい財政状況でありますので、すぐに「はい、やります」「これやります」って言えなくて申し訳ないんですけど、やはりこうやって皆さんの声をいただくことが非常に大事なことです。これからも皆さんにはまちのことを思っご意見をいただければと思っております。最後に前神課長からあると思っておりますけども、はがきやメールで声を届けていただく制度もございますので、これからも皆様方の声を聞かせていただければと思っております。ちょっと8時半を過ぎましたけれども、今日は大変お世話になりました。これからもよろしくお願いいたします。

—— 了 ——